

令和 6 年度

自己評価・学校関係者評価報告書

自 令和 6 年 4 月 1 日 至 令和 7 年 3 月 31 日

学校法人臼井学園
臼井幼稚園

1. 本園の教育目標

- 1) 楽しいから、好き
興味関心を第一に考えた保育。
「やってみたい」という意欲を育てる
- 2) 指示をしない保育を目指す
自ら何をしたいのか、何をしなければならないのか、考えて行動できる子どもに育てる。
- 3) インクルーシブな教育
自分以外の存在に気付き、自分とは違うことを尊重できる。どんな相手に対しても思いやりをもって接することができる子どもになる。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 1) 満三歳児からの保育の充実
- 2) 教員研修の充実
- 3) 安全管理の再点検

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	項目	取り組み状況と評価
1)	満三歳児保育の充実	満三歳児の社会性の向上が認められるためか、満三歳児クラス（さくら組）への入園希望が増え、充実したクラス運営ができています。年少への進級した時の、クラスの落ち着きに変化がみられるようになった。
2)	特別に支援の必要なお子さんのサポートを充実させる	園内研修と、情報交換、個別指導計画を作成、1 年単位で成長を明文化し、継続して記録することで成長が視覚化できた。 PONO の設立に伴い、幼稚園との連携ができ、特別支援が充実できた。
3)	定期的、計画的な研修の実施により教職員の資質向上	各学年でのカリキュラム別の研修を継続して行なっている。 夏休みの園外研修の継続。
4)	家庭のある教員達の働き方の見直し	子育て中の教員達が働きやすいよう、参観や病気の時に柔軟に対応できるよう体制を整えた。
5)	事故防止のため安全管理の在り方を再点検する	園庭遊具の点検 園内、教室内、玩具類の安全点検 定期的に行なうことで怪我を防ぐことができた。

4. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
急激な少子化、保護者ニーズの多様化、ICTの普及、労働意識の変化など幼稚園を取り巻く社会状況が変化しつつある	社会の変化はあるけれど、子どもの育ちを健全に推進していけるよう教職員間で協議する。 教員のモチベーションを高められるよう、コミュニケーションをより密にしたり、風通しのよい職場環境にする。
園の方針、教育課程の実践にあたり教員共通理解を図る。	日頃より教職員が相互に意見交換をし、保護者への対応、カリキュラムの実施について差が生じないように努める。
保護者との良好なコミュニケーションを継続する。	気になる園児の保護者と早めに、小まめに、個別に懇談の場を設けることで、園内での園児の様子を伝え、保護者の不安を解消したり受け止めたりしていく。
労務管理	なるべく早く帰宅するよう、教職員全体で協力する。

5. 学校関係者からの評価

少子化の影響で園児数の減少がみられるが、こちらの幼稚園だけではない。満三歳児の保育が充実し、年少への好影響が確認できる。

普通の幼稚園よりも、特別支援のお子さんが多い印象だが、サポートする教職員が多く、担任の負担が軽減できている。クラスの友達が特別支援の子どもと自然に関わり合っていて、インクルーシブ教育が定着している。

特別支援の子ども達を受け入れる体制を見習うべきである。

東京都東村山市 秋津こども園 園長 小島 聖
 埼玉県春日部市 庄和こぼと幼稚園 園長 中村美智代
 千葉敬愛短期大学 教授 大野 雄子

令和7年3月

6. 財務状況

公認会計士の監査において、当法人は適正に運営されていると認められている。